

2023 年度 公益財団法人 JKA 補助事業の自己評価について

2022 年度地域社会及び消費者の安全・安心に資する活動補助事業について、2023 年 2 月 15 日 公益財団法人全国少年警察ボランティア協会において、自己評価を行いました。その結果は下記のとおりです。

記

2023 年の刑法犯認知件数については、各地域における人流が新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準に戻りつつあり、平成 15 年から令和 3 年まで一貫して減少してきたところ、令和 5 年は 70 万 3,351 件と戦後最小となった令和 3 年から 2 年連続して増加し（前年比 17%増加）、令和元年の水準に近づいていることから、今後の動向について注視しすべき状況にあり、少年犯罪も同様の傾向がみられた。

従前に比べ少年犯罪は減少傾向にあるものの、少年の自殺者、不登校、いじめの、家庭内暴力の認知件数は増加している。また、様々な問題を抱え居場所を失い、非行等に走りかねない少年たちの立ち直りには、責任ややりがい等を持たせ、人々と協力し、それをやり遂げて達成感を味わい、あわせて規範意識や社会性も身に付けさせるという健全な育成の場を作る必要がある。

そこで、農場等において、農作物の種まき、施肥、草取り、収穫等の農作業に従事するという農業体験には、物事への継続した取り組みによる忍耐力の涵養やこれら体験を通して、情操面における教育効果や居場所を見つけられるという効果も期待されている。

このようなことから、当協会では、本年度も公益財団法人 JKA の補助を受けて「農業体験による立ち直り支援」を実施し、全国の少年警察ボランティアと協力して、28 都道府県（28 か所）で実施した。その状況は、延べの参加人員では、少年 714 名、少年警察ボランティア 1,051 名、警察職員及び関係者等 1,306 名、合計 3,071 名であった。

少年たちは、農業指導員やボランティアなどの熱意ある指導等に触れていくうち次第に興味を持つようになり、参加した少年らからは「大変な作業もあったが、できたことを褒めてもらって、自信がついた。」ボランティアからは、「雨の中の作業でも参加した少年達は協力して一生懸命やったことにより、連帯感や達成感を味わうことができたと思う。」

「最初、不愛想だった少年が楽しそうな顔になっていく姿を見て、嬉しくなった。」など。また、保護者からは「家では見ることのできない子供の姿を見ることができて、涙がでてきた。」等と感謝の意が伝えられた。

少年たちは活動を通じて仕事の大変さや、それをやり遂げる達成感や充実感等を実感するとともに、自分でもできるという自己肯定感の向上につながった等の声が多く聞かれた。

以上のことから、本事業は、少年たちの立ち直りに役立ち、非行防止と健全育成につながっていくものと考え、今後も継続してこの取り組みを実施していく必要があり、さらなる成果を上げていくためには、様々な工夫を凝らして中身の濃い活動にしていきたいと考える。

公益財団法人全国少年警察ボランティア協会